



Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.3

Red Hat JBoss EAP XP 2.0.0 リリースノート

JBoss EAP XP 2.0.0 向け

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 7.3 Red Hat JBoss EAP XP 2.0.0 リリースノート

JBoss EAP XP 2.0.0 向け

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2023 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Red_Hat_JBoss_EAP_XP_2.0.0_Release_Notes.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書は、JBoss EAP XP 2.0.0 リリースに関する一般的な情報を提供します。

目次

第1章 新機能および改良された機能	3
1.1. JBOSS EAP XP マネージャー	3
status コマンドの改善	3
新しい patch-apply コマンド	3
新しい upgrade コマンド	3
1.2. ECLIPSE MICROPROFILE	3
MicroProfile Health での readiness プローブのサポート	3
1.3. 起動可能な JAR	3
アプリケーションを起動可能な JAR としてパッケージ化する機能	4
アプリケーションを高度に起動可能な hollow JAR としてパッケージ化する機能	4
Red Hat Single Sign-On でのアプリケーションのセキュリティー保護	4
Maven feature-pack の場所	4
1.4. コンテンツのトリム	4
JBoss EAP XP に追加されたコンテンツのトリム	5
新しい Galleon レイヤー	5
1.5. クイックスタート	5
OpenShift クイックスタート	5
起動可能な JAR の Eclipse MicroProfile クイックスタート	5
1.6. CODEREADY サポート	5
起動可能な JAR の CodeReady サポート	5
第2章 メンテナンスサポート	7
2.1. JBOSS EAP XP のメンテナンスサポート	7
第3章 サポートされない機能と非推奨の機能	8
3.1. サポートされない特性	8
起動可能な JAR を使用した EAP Operator の自動ランザクションリカバリー	8
3.2. 非推奨の機能	8
OpenShift での OpenJDK 8 イメージおよびイメージストリーム	8
第4章 解決された問題および既知の問題	9
4.1. 解決した問題	9
4.2. 既知の問題	9
ベアメタル Windows プラットフォームへのサーバーインストールディレクトリー	9
ホットデプロイおよび OpenShift サーバーアダプター	9

第1章 新機能および改良された機能

1.1. JBOSS EAP XP マネージャー

JBoss EAP XP マネージャーは、JBoss EAP XP 2.0.0 で改良されました。

status コマンドの改善

status コマンドは、以下の情報を提供します。

- サーバーのバージョン。
- パッチストリームと累積パッチ ID を有効にしました。

古い JBoss EAP XP サーバーがインストールされている場合は、このコマンドにより **アップグレード** プロンプトも提供されます。

新しい **patch-apply** コマンド

JBoss EAP XP マネージャー 2.0 は、**patch-apply** コマンドを提供します。このコマンドは **patch apply** 管理 CLI コマンドと似ていますが、使用する引数は管理 CLI コマンドほど多くありません。

patch-apply コマンドを使用して、サーバーで有効なパッチストリームにパッチを適用できます。そのため、ベースサーバーのパッチと JBoss EAP XP パッチの両方を JBoss EAP XP パッチストリームが有効になっているサーバーに適用できます。

新しい **upgrade** コマンド

JBoss EAP XP マネージャー 2.0 は **upgrade** コマンドを提供します。

このコマンドを使用して JBoss EAP XP 1.0.x を JBoss EAP XP 2.0.0 にアップグレードします。

その他のリソース

- JBoss EAP XP マネージャーコマンドの詳細は、**Using Eclipse MicroProfile with JBoss EAP XP 2.0.0** の [JBoss EAP XP manager 2.0 commands](#) を参照してください。

1.2. ECLIPSE MICROPROFILE

MicroProfile Health での **readiness** プロープのサポート

JBoss EAP XP 2.0.0 は、サーバーの正常性および準備状態を判断するために以下の **readiness** プロープをサポートします。

- **server-status**: サーバーの状態が **稼働中** のときに **UP** を返します。
- **boot-errors**: プロープがブートエラーを検出しないときに **UP** を返します。
- **deployment-status**: すべてのデプロイメントのステータスが **OK** の場合は **UP** を返します。

readiness プロープの詳細は、**Using Eclipse MicroProfile with JBoss EAP XP 2.0.0** の [Readiness probes that determine server health and readiness](#) を参照してください。

1.3. 起動可能な JAR

アプリケーションは、起動可能な JAR または JBoss EAP XP 2.0.0 で起動可能な hollow JAR としてパッケージ化できるようになりました。

アプリケーションを起動可能な JAR としてパッケージ化する機能

起動可能な JAR には、サーバー、パッケージ化されたアプリケーション、およびサーバー起動に必要なランタイムが含まれます。

JBoss EAP Maven プラグインを使用して、マイクロサービスアプリケーションを起動可能な JAR としてビルドおよびパッケージ化できます。その後、JBoss EAP ベアメタルプラットフォームまたは JBoss EAP for OpenShift プラットフォームでアプリケーションを実行できます。

起動可能な JAR Maven プラグインは Galleon トリム機能を使用して、サーバーのサイズおよびメモリーフットプリントを削減します。そのため、必要な機能を提供する Galleon レイヤーのみを含め、要件に応じてサーバーを設定できます。

アプリケーションを起動可能な JAR としてパッケージ化する方法は、**JBoss EAP XP 2.0.0** での **Eclipse MicroProfile** の [起動可能な JAR](#) の使用を参照してください。

アプリケーションを高度に起動可能な hollow JAR としてパッケージ化する機能

起動可能な JAR をプロビジョニングできます。この JAR にはサーバーのみが含まれるため、サーバーを再利用して別のアプリケーションを実行できます。

アプリケーションを起動可能な hollow JAR としてパッケージ化する詳細は、**JBoss EAP XP 2.0.0** での **Eclipse MicroProfile** の使用の [Using a bootable JAR on a JBoss EAP bare-metal platform](#) を参照してください。

Red Hat Single Sign-On でのアプリケーションのセキュリティ保護

Galleon **keycloak-client-oidc** レイヤーを使用して、Red Hat Single Sign-On OpenID Connect クライアントアダプターでプロビジョニングされたバージョンのサーバーをインストールできます。

keycloak-client-oidc レイヤーは、Red Hat Single Sign-On OpenID Connect クライアントアダプターを Maven プロジェクトに提供します。このレイヤーは、**keycloak-adapter-galleon-pack** Red Hat Single Sign-On 機能パックに含まれています。

プロジェクトで **org.jboss.sso:keycloak-adapter-galleon-pack:9.0.10.redhat-00001** 機能パックを指定して、**keycloak-adapter-galleon-pack** 機能パックを Maven プロジェクトに追加できます。

keycloak-client-oidc レイヤーの使用に関する詳細は、**JBoss EAP XP 2.0.0** での **Eclipse MicroProfile** の使用の [Securing your JBoss EAP bootable JAR application with Red Hat Single Sign-On](#) を参照してください。

Red Hat Single Sign-On アダプターサブシステムの設定に関する情報は、**Securing Applications and Services Guide** の [JBoss EAP Adapter](#) を参照してください。

Maven feature-pack の場所

JBoss EAP XP 2.0.0 では、JBoss EAP feature-pack の場所は **org.jboss.eap:wildfly-galleon-pack:2.0.0.GA-redhat-00002** です。この feature-pack の場所は、Maven プロジェクトの **pom.xml** ファイルの **<plugin>** 要素で参照する必要があります。

JBoss EAP XP 2.0.0 でサポートされる JBoss EAP JAR Maven プラグインの詳細は、**JBoss EAP XP 2.0.0** での **Eclipse MicroProfile** の使用の [JBoss EAP Maven plug-in](#) を参照してください。

その他のリソース

- アプリケーションを起動可能な JAR としてパッケージ化する方法は、**JBoss EAP XP 2.0.0** での **Eclipse MicroProfile** の [起動可能な JAR](#) の使用を参照してください。

1.4. コンテンツのトリム

JBoss EAP XP に追加されたコンテンツのトリム

JBoss EAP XP を使用する場合に JBoss EAP をサポートするために導入されたコンテンツトリム機能は、JBoss EAP XP を使用する場合にサポートされるようになりました。詳細は、[Using Eclipse MicroProfile with JBoss EAP XP 2.0.0](#) の [Capability trimming](#) を参照してください。

新しい Galleon レイヤー

Eclipse MicroProfile 機能をサポートするレイヤーなど、新しい Galleon レイヤーが複数追加されました。詳細は、[Using Eclipse MicroProfile with JBoss EAP XP 2.0.0](#) [デコレーターレイヤー](#) を参照してください。

1.5. クイックスタート

OpenShift クイックスタート

OpenShift をサポートするために JBoss EAP XP 1.0.0 でリリースされたクイックスタートはテクノロジープレビューでした。

JBoss EAP XP 2.0.0 の時点で、これらのクイックスタートは完全にサポートされます。

起動可能な JAR の Eclipse MicroProfile クイックスタート

JBoss EAP XP 2.0.0 は、起動可能な JAR 機能を理解するために使用できる Eclipse MicroProfile クイックスタートを提供します。

各クイックスタートは、小規模かつ特定の起動可能な JAR の例を提供します。クイックスタートを使用して、選択したプラットフォームで起動可能な JAR サンプルを実行し、テストします。



注記

Eclipse MicroProfile クイックスタートは、空の JAR の構築およびテストには使用できません。

以下の Eclipse MicroProfile クイックスタートを使用して、ベアメタルプラットフォームまたは OpenShift プラットフォームのいずれかで起動可能な JAR をテストします。

- Eclipse MicroProfile Config
- Eclipse MicroProfile Fault Tolerance
- Eclipse MicroProfile Health
- Eclipse MicroProfile
- Eclipse MicroProfile Metrics
- Eclipse MicroProfile OpenAPI
- Eclipse MicroProfile OpenTracing
- Eclipse MicroProfile REST クライアント

1.6. CODEREADY サポート

起動可能な JAR の CodeReady サポート

CodeReady Studio および CodeReady Workspaces を使用して、ベアメタルプラットフォーム用の起動可能な JAR を作成できるようになりました。

CodeReady Studio での OpenShift の起動可能な JAR のビルドのサポートは、CodeReady Studio 12.18.0 のリリースを保留します。

CodeReady Workspaces での OpenShift の起動可能な JAR のビルドのサポートは、CodeReady Workspaces 2.6.0 のリリースを保留します。

これらのリリースには、OpenShift の起動可能な JAR を構築するために必要な devfile のサポートが追加されました。

第2章 メンテナンスサポート

2.1. JBoss EAP XP のメンテナンスサポート

新しい JBoss EAP XP メジャーバージョンがリリースされると、以前のメジャーバージョンのメンテナンスサポートが開始されます。通常、メンテナンスサポートは 12 週間の間です。

メンテナンスサポートの長さ外にある JBoss EAP XP メジャーバージョンを使用している場合は、セキュリティパッチおよびバグ修正の開発が適用されなくなったため、問題が発生する可能性があります。このような問題を回避するには、お使いの JBoss EAP バージョンと互換性のある最新の JBoss EAP XP メジャーバージョンリリースにアップグレードします。

関連情報

- メンテナンスサポートの詳細は、Red Hat カスタマーポータルにある [Red Hat JBoss Enterprise Application Platform expansion pack \(JBoss EAP XP or EAP XP\) Life Cycle and Support Policie](#) を参照してください。

第3章 サポートされない機能と非推奨の機能

3.1. サポートされない特性

メンテナンスコストの高さ、コミュニティでの関心の低さ、および高性能な代替ソリューションの存在などが理由で、一部の技術がサポート対象外になりました。以下の機能は JBoss EAP XP 2.0.0 ではサポートされません。

起動可能な **JAR** を使用した **EAP Operator** の自動ランザクションリカバリー

OpenShift では、起動可能な JAR で EAP Operator の自動化ランザクションリカバリー機能を使用することはできません。この技術制限の修正は、今後の JBoss EAP XP 2.0.0 パッチリリースに対して予定されています。

3.2. 非推奨の機能

本リリースでは一部の機能が非推奨になりました。非推奨の機能には改良が加えられず、将来的 (通常は次のメジャーリリース) に削除される可能性があります。

Red Hat は標準のサポート条件に基づき、継続して完全サポートおよびバグ修正を提供します。JBoss EAP XP の Red Hat サポートポリシーに関する詳細は、Red Hat カスタマーポータルにある [Red Hat JBoss Enterprise Application Platform expansion pack のライフサイクルとサポートポリシー](#) を参照してください。

OpenShift での **OpenJDK 8** イメージおよびイメージストリーム

OpenShift では、以下の OpenJDK 8 イメージが非推奨になりました。

- eap-xp2-openjdk8-openshift-rhel7
- eap-xp2-openjdk8-runtime-openshift-rhel7

OpenShift では、以下の OpenJDK 8 イメージストリームが非推奨になりました。

- jboss-eap-xp2-openjdk8-openshift
- jboss-eap-xp2-openjdk8-runtime-openshift

これらのイメージおよびイメージストリームは OpenShift 上で引き続きサポートされます。ただし、これらのイメージおよびイメージストリームの拡張機能はなく、今後削除される可能性があります。Red Hat は、標準のサポート条件下で、OpenJDK 8 イメージおよびイメージストリームに対するフルサポートおよびバグ修正を継続して提供します。

第4章 解決された問題および既知の問題

4.1. 解決した問題

本リリースで解決した問題のリストは、[Resolved Issues for JBoss EAP XP 2.0.0](#) を参照してください。

4.2. 既知の問題

本リリースでの既知の問題の一覧は、[Known Issues for JBoss EAP XP 2.0.0](#) を参照してください。

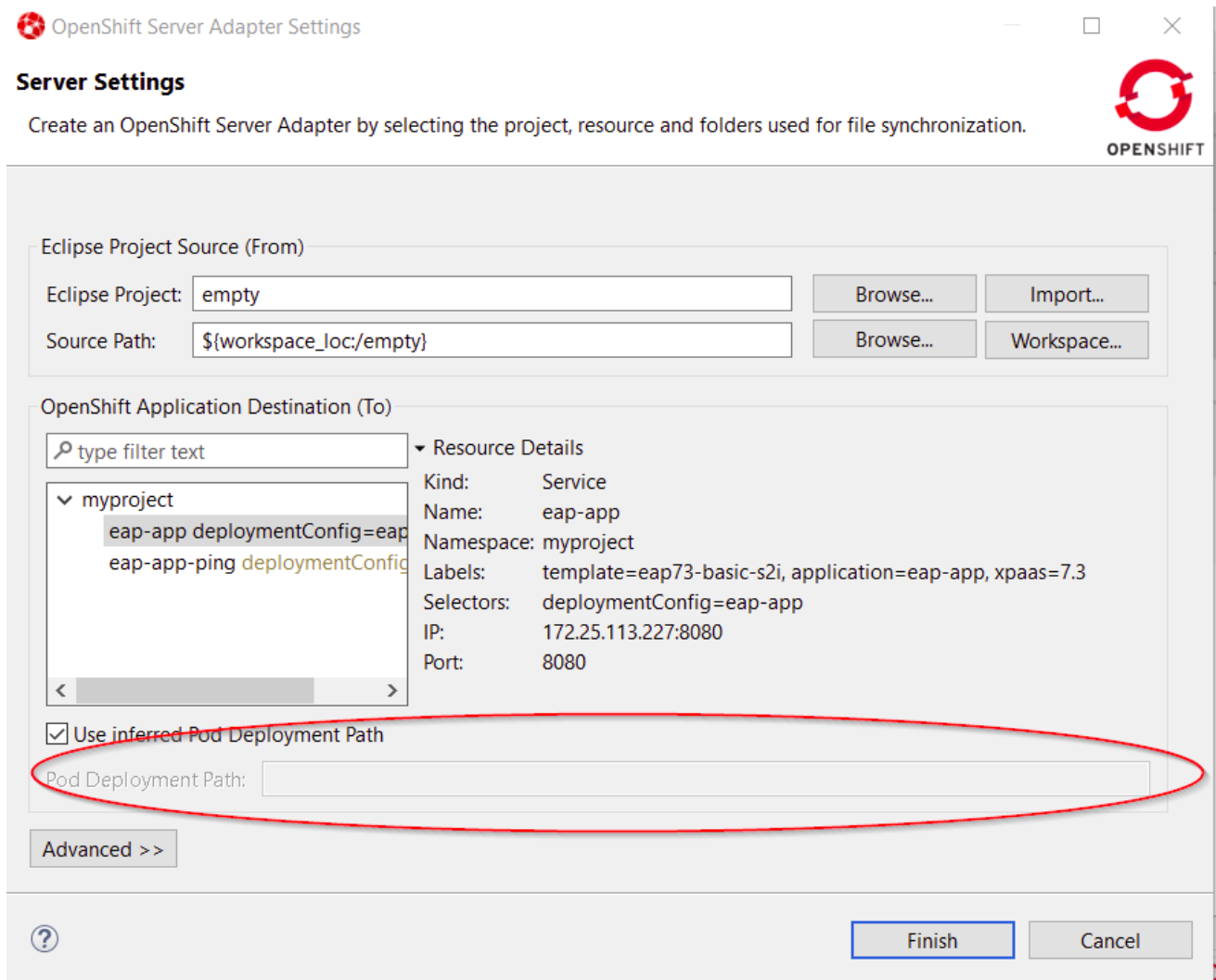
ベアメタル Windows プラットフォームへのサーバーインストールディレクトリー
ベアメタル Windows プラットフォームで実行されている起動可能な JAR を終了する
と、`%userprofile%\AppData\Local\Temp\wildfly-bootable-server_XXX_` (XXX は起動可能な JAR
サーバーの一意識別子である) は、自動的に削除されないため、ディレクトリーを手動で削除する必要
があります。 `--install-dir=<install dir>` 引数を使用してインストールディレクトリーを設定する場
合は、TEMP ディレクトリーではなく、指定した `<install dir>` インストールディレクトリーを削除する必
要があります。

ホットデプロイおよび OpenShift サーバーアダプター

現在、ホットデプロイは OpenShift サーバーアダプターでは機能しません。Red Hat が修正をしてい
る。

この問題を回避するには、OpenShift Server Adapter Settings Server Settings ウィンドウで **Use
inferred Pod Deployment Path** をクリアし、付随イメージで説明されているように **Pod Deployment
Path** フィールドを `/opt/eap/standalone/deployments/` に設定します。

図4.1 Pod デプロイメントフィールド



The screenshot shows the "OpenShift Server Adapter Settings" dialog box. The "Server Settings" section contains the following fields and controls:

- Eclipse Project Source (From):**
 - Eclipse Project: empty (with Browse... and Import... buttons)
 - Source Path: \${workspace_loc/empty} (with Browse... and Workspace... buttons)
- OpenShift Application Destination (To):**
 - Search: type filter text
 - Resource Details:
 - Kind: Service
 - Name: eap-app
 - Namespace: myproject
 - Labels: template=eap73-basic-s2i, application=eap-app, xpaas=7.3
 - Selectors: deploymentConfig=eap-app
 - IP: 172.25.113.227:8080
 - Port: 8080
 - Resource list: myproject
 - eap-app deploymentConfig=eap...
 - eap-app-ping deploymentConfig...
 - Use inferred Pod Deployment Path (circled in red)
 - Pod Deployment Path: (empty text field)
- Advanced >> button
- Finish and Cancel buttons at the bottom right.

詳細は、<https://issues.redhat.com/browse/JBIDE-27591> を参照してください。